■ 宝町・鶴間新キャンパス（仮称）整備基本計画 Version UP 2026 令和8年10月

金沢大学 KANAZAWA UNIVERSITY

●基本計画の策定方針（要約）

① 地域と世界に開かれた研究拠点となり，グローバル人材の育成の場となること
② デジタル技術と医療・健康研究などの異分野融合による社会実装の場となること
③ 地球環境へ配慮し，地域活性化，安全で快適な居住空間の実現を目指すこと
④ 持続的な利用と運営を実現するキャンパス計画であること

●キャンパス整備の基本方針

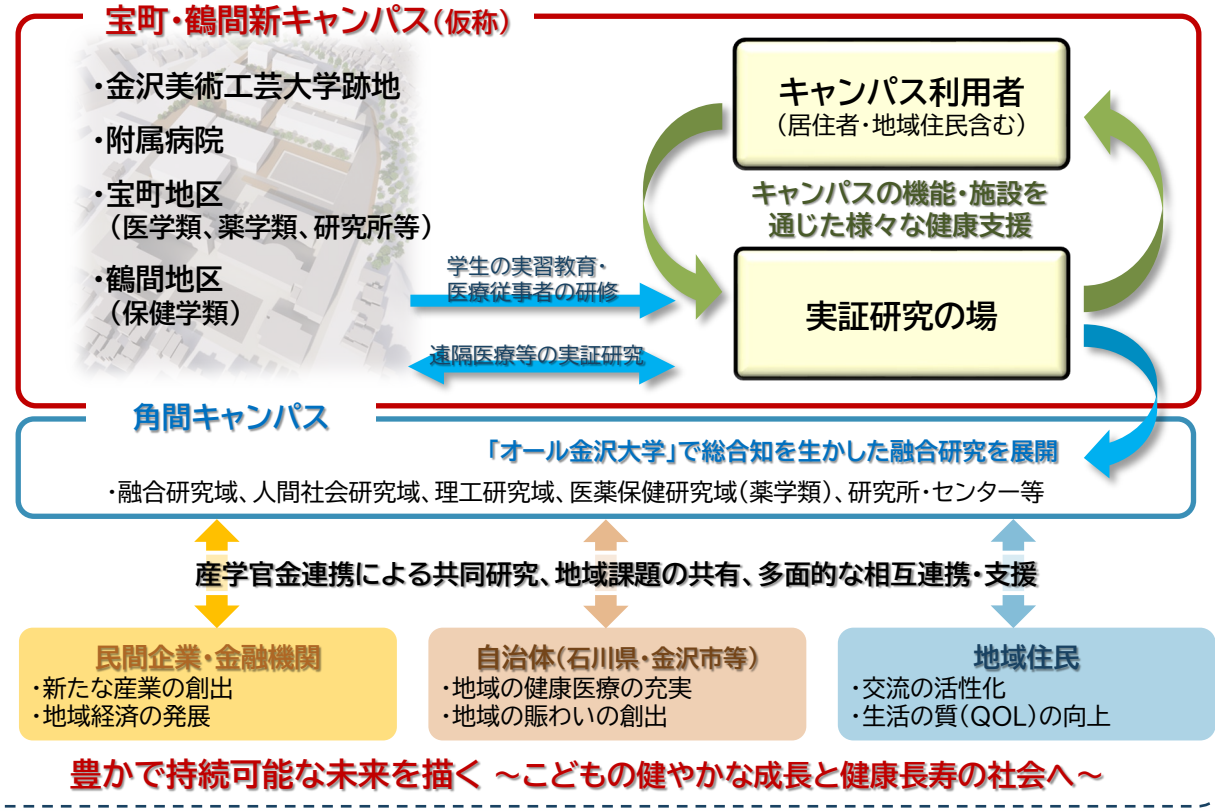
「宝町・鶴間新キャンパス（仮称）から地域と世界へ」
を目指した世界的研究拠点となるキャンパスの構築

●コンセプト　22世紀の健康社会を50年前倒しで実現するウェルビーイングキャンパス　～未来知スマートタウン（仮称）～

●新キャンパスの概要

（教育研究・ヘルスケアの枠組み）

・健康の享受、災害への備えが図られた安心・安全の日常における自然な幸福感
・未来健康都市モデル：未来型の医療居住環境の創造と発信



豊かで持続可能な未来を描く ～こどもの健やかな成長と健康長寿の社会へ～

3つの柱

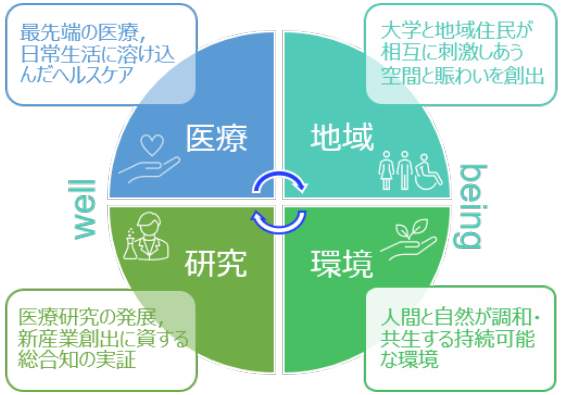
【学術 ～知の創造拠点～】
- 附属病院を中心とした先進医療と医学、保健学、薬学をコアとした「総合知」を実践する環境

【居住 ～世界に羽ばたく人材育成拠点～】
- 学生、教職員、地域住民が共に快適に暮らす居住環境

【交流 ～地域を繋ぐキャンパス～】
- 教職員、学生、地域住民等が共に安らぎ、人と自然が調和する環境

●医療・研究・地域・環境のウェルビーイングのために

- ヘルスケアを中心とした、健康に寄与する新たな機能を備えたキャンパスの実現
- 「超高齢化社会」において、「自分らしく生きる」という社会の理想の実現



●未来知スマートタウンの理念

【目指す姿】
- 22世紀の健康社会：人々が住んでいる場所に寄らず、自分が思い描く健康を実現でき、住んでいる人の健康を街自体が見守り、普通に生活しているだけで健康になっていく、 健康総和を最大化させる社会
- 実証研究型スマートタウン：22世紀の健康社会を実現する商品／サービスを企業が創出できる多様性を持つ実証環境を提供

【キーワードは多様性】
- 多様な人（学生・教職員・外国人・地域住民など）と機能（居住・学び・健康・交流・研究）が調和して共存する状態



※本計画は令和8年10月時点の基本計画であり、今後変更となる可能性があります。

■ 未来知スマートタウン（仮称）の構成と機能

（注）ゾーニング計画図及びスケジュールは、令和8年10月時点のもので、今後変更となる可能性があります。

金沢大学 KANAZAWA UNIVERSITY

① 自然との共生エリア

屋外環境
コミュニティ広場（芝生）
遊歩道（散策路）

- 本学の学生・教職員、地域住民等の様々な人々が集う既存の自然と共生した憩いの空間や防災拠点としての、コミュニティ広場（芝生）
- 斜面緑地の木々や金沢の街並みを眺めながら歩く遊歩道（散策路）

【整備時期】（大学が先行して整備）
- 土地取得後～順次整備
- 居住エリアの駐車場（雨水貯留槽）も含む

② 居住エリア

学生・教職員宿舎

- 看護師、初期研修医等を含めた教職員の居住施設（50戸程度）
- 日本人学生、留学生の居住施設（100戸程度）
- 中央の交流広場は、多様な人が集う憩いの場

【整備時期】（民間事業者による整備）
- 令和9（2027）年5月頃　入札公告
- 令和10（2028）年3月頃　事業者決定
- 令和13（2031）年3月頃　竣工
- なお、Ⅱ期事業は令和13（2031）年以降の整備着手予定（学生・教職員宿舎増設）



③ 研究・教育・交流エリア

未来型健康支援センター
民間附帯施設　等

- 本学の研究・教育機能と民間企業等が協働する健康・憩い・賑わいを生み出す施設
- 未来型健康支援センター（附属病院と連携した住民への見守りサービスの提供、研究成果の実践の場）
- 民間附帯施設（既存の未来知実証センターと連携した実証研究型の民間施設、例えば多世代型居住施設、各種アメニティ施設、市民の憩いの場等）

【整備時期】（民間事業者による整備）
- 現時点のスケジュールは未定
- 引き続き民間事業者との対話を継続しながら実現を目指す

④ 産学連携研究エリア

産学連携拠点施設

- 本学と民間企業等が協働した産学連携研究・実証拠点施設
- 医療を基軸とした文理医による地域連携

【整備時期】（大学による整備）
- 土地取得後～外部資金の獲得状況を踏まえて整備

※新キャンパスでは一体性をキーワードとし、工区を分けて段階的に開発することで健康データと医療を起点とした新たな価値を生み続ける「実証研究型スマートタウン」を目指します。